

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



有限会社
金田商事

2009年度環境活動レポート

(2009年 10月～2010年 2月)

作成日： 2010年3月10日
改訂日： 2010年4月26日

《有限会社 金田商事 環境方針》

□ごあいさつ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。

そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なっております。

有限会社 金田商事

取締役社長

金田 大地

<環境理念>

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
 - ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
 - ③節水による水資源使用量の削減。
 - ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正処理を推進するため、取扱量の増加を目指す。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

取締役社長

金田 大地

□登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社: 兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号
本社工場: 同上

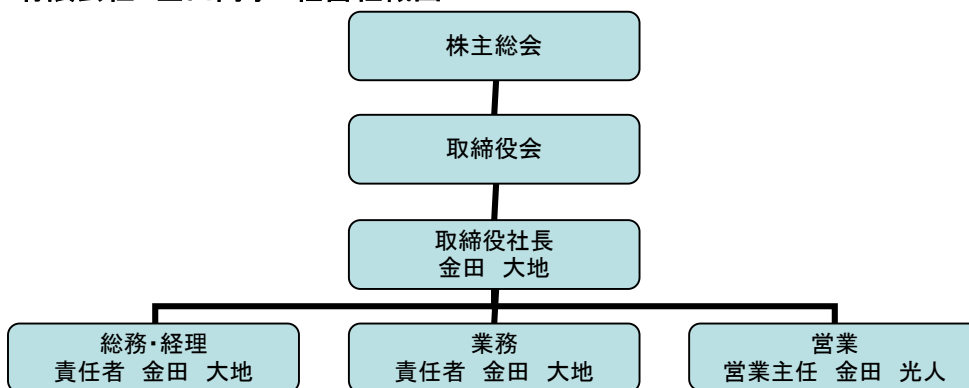
(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金300万円

(5) 有限会社 金田商事 経営組織図



前会社法の定める有限会社となっております。

- ・株主 1名。
- ・取締役(役員) 1名
- ・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門 等の設置は行なっておりません。

総務・ 経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708
担当者 同上

(7) 事業内容(認証・登録の範囲)

- ・金属くず商
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・古物商
- ・その他前出に付帯する事業

(8) 事業の規模

総売上高 1.7億円 (2008年度)
主要商品取り扱い量 6,198トン (2008年度)

活動規模	単位	2006年度	2007年度	2008年度
取り扱い数量	t	8,190	8,018	6,198
内訳: 金属スクラップ	t	8,180	8,007	6,184
内訳: 産業廃棄物 (収集運搬)	t	10	11	14
産業廃棄物(収集運搬)	m ³	0	0	0
売上高	百万円	332	477	172
従業員	人	3.0	3.0	3.0
床面積	m ²	580	580	580
保有貨物車両台数 (期末時点)	台	3	3	3
保有乗用車両台数 (期末時点)	台	2	2	2
保有荷役車両台数 (期末時点)	台	3	3	3

(9) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

◆主たる区分:事務機器類

◆扱い品目:自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 2700132377号

許可の年月日:平成19年1月22日

許可の有効年月日:平成24年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.金属くず 3.ガラスくず(※)(石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上3種類

(※)「ガラスくず」とは「ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず」のことです。

2.許可の条件 無

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

4.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 無

2.)大阪市許可番号 6600132377号

許可の年月日:平成19年1月29日

許可の有効年月日:平成24年1月28日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.ゴムくず 3.金属くず 4.ガラスくず(石綿含有産業廃棄物を除く)

以上4種類

2.許可の条件 無

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月29日当初許可

4.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 無

(10) 施設の状況

保有設備

運搬車両	台数
10t積み平ボディー車	1
7t積み平ボディー車	1
4t積みユニック搭載平ボディー車	1
荷役車両	
2.5t揚力フォークリフト	1

(11) 処理実績

産業廃棄物(収集運搬)	単位	2006年度	2007年度	2008年度
廃プラスチック	t	10	11	14
計	t	10	11	14

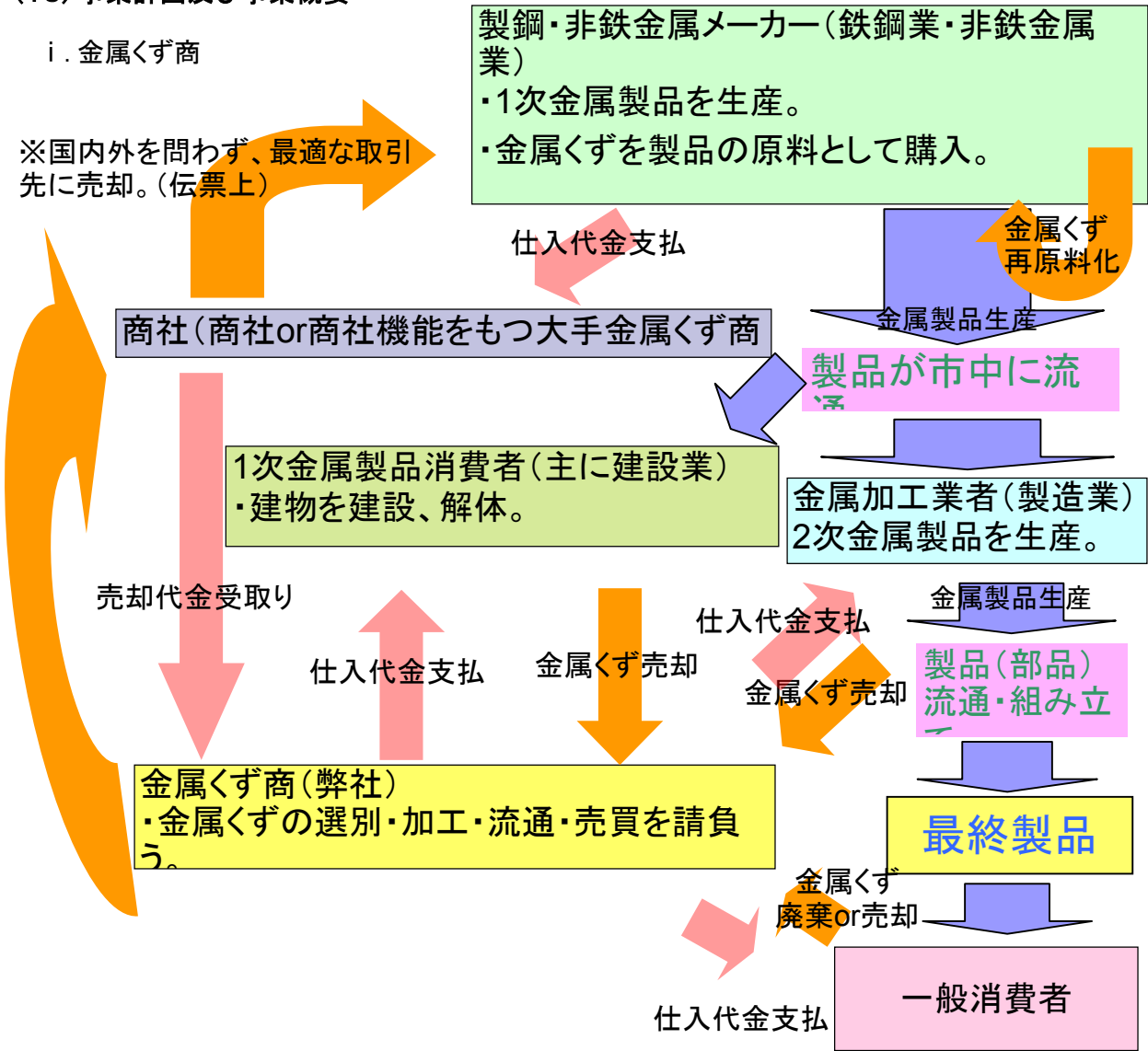
(12) 廃棄物処理料金

取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

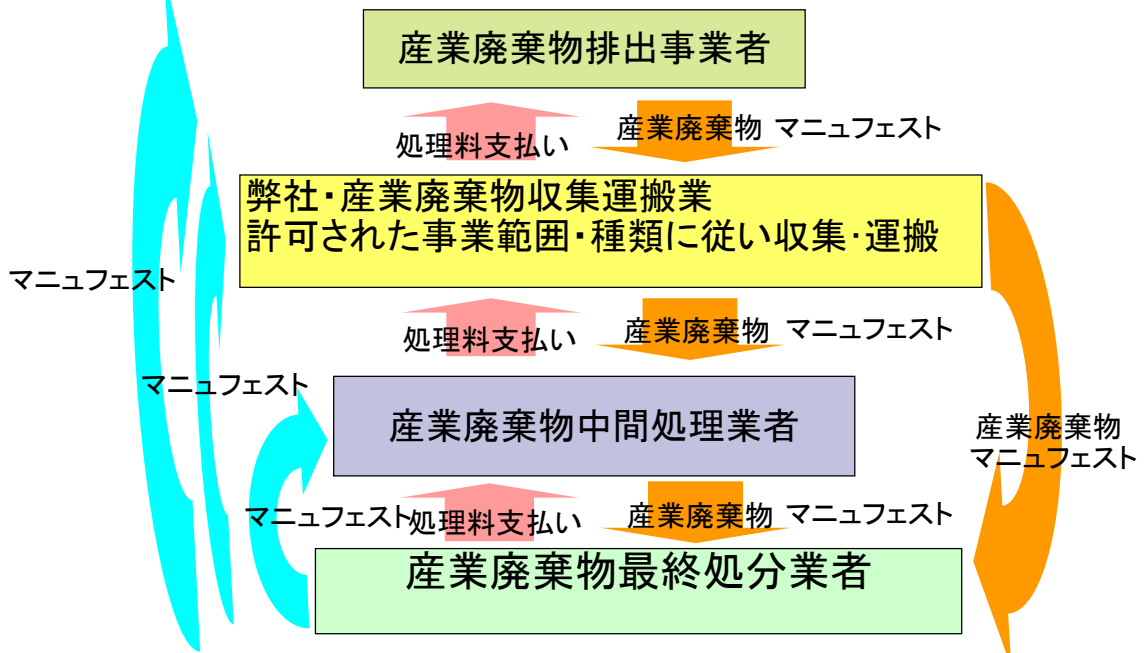
(13) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商

※国内外を問わず、最適な取引先に売却。(伝票上)



ii. 産業廃棄物収集運搬



(14) 事業年度 10月～9月(今回の活動レポートの対象期間は10月～2月まで)

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2006年	2007年 (基準年度)	2008年
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	49,142.73	53,469.69	47,249.23
廃棄物排出量	kg/年	記録なし	1,620.00	3,580.00
一般廃棄物量排出量	kg/年	記録なし	170.00	2,110.00
産業廃棄物排出量	kg/年	記録なし	1,450.00	1,470.00
総排水量	m ³ /年	26.00	24.00	30.00
受託した産業廃棄物の 処理量	トン/年	10.21	11.43	14.13

□環境目標及びその実績

・環境負荷削減目標

項目	年度	2007年 (基準年度)	2009年		2010年 (目標)基準 年度比98%	2011年 (目標)基準 年度比97%
			上段:通年			
			(目標)基準 年度比99%	(実績)		
電力の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO ₂	2,632.39	2,606.07 978.59	— 1,723.30	2,579.74	2,553.42
軽油の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO ₂	43,236.03	42,803.67 19,313.86	— 14,567.08	42,371.31	41,938.95
ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	4,900.91	4,851.90 1,813.93	— 1,411.36	4,802.89	4,753.88
灯油の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO ₂	358.84	355.25 355.25	— 403.69	351.66	348.07
LPGの二酸化炭素排 出量削減(基準年度中途か らの使用。LPG使用期間は5ヶ 月間)	kg-CO ₂	2,341.53	2,318.11 965.88	— 1,936.26	2,294.70	2,271.28
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	53,469.69	23,427.51	20,041.70	52,400.30	51,865.60
一般廃棄物の削減	(kg/年)	170.00	168.30 0.00	— 150.00	166.60	164.90
産業廃棄物の削減	(kg/年)	1,450.00	1,435.50 670.00	— 670.00	1,421.00	1,406.50
節水	(m ³ /年)	24.00	23.76 7.92	— 12.00	23.52	23.28

・取り扱い数量目標

項目	年度	2007年 (基準年度)	2009年		2010年 (目標)基準 年度比110%	2011年 (目標)基準 年度比115%
			上段:通年			
			(目標)基準 年度比105%	(実績)		
金属屑(有価物)の取扱 量(本年度目標:基準年 度比105%)	トン/年	8,007.00	8,407.35 3,503.06	— 2,906.80	8,807.70	9,208.05
受託した産業廃棄物の 処理量(許可区分:収集 運搬のみ)本年度目標: 基準年度比105%	トン/年	11.43	12.00 5.00	— 8.29	12.57	13.14

□環境活動の取り組み計画と評価

今回は期の途中のため、10月～2月までの目標とその実績について、その評価を行った。

取り組み計画	達成状況		単位	評価(結果と今後の方向)
電力の二酸化炭素排出量削減 ・冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃) ・クールビズ・ウォームビズ運動 ・照明・事務機器等の不使用時の電力削減。	基準年度	2,632.39	kg-CO2	目標未達成
	目標	2,606.07	kg-CO2	冷暖房の設定温度(冷房28℃ 暖房20℃)は、遵守することができた。しかし、就業時間の延長と福利厚生目的で設置した飲料自販機1台の増設により、電力消費が増え結果、目標未達成となった。〈実施済み活動計画〉家主と交渉し、社屋屋根に上張りし、明かり取りを新調。作業場の照度が向上した。(断熱機能の向上と照明電力消費の削減。) 自販機に関しては、1年契約となり、固定された電力消費となる。使用状況を見て契約解除も検討する余地がある。
	目標(5ヶ月間)	978.59	kg-CO2	
	実績(5ヶ月間)	1,723.30	kg-CO2	
軽油の二酸化炭素排出量削減 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先する ・車両整備・点検の実施	基準年度	19,313.86	kg-CO2	目標大幅達成
	目標	42,803.67	kg-CO2	エコドライブの定着、低燃費車への乗り換えによって、25%減の大幅目標達成となった。しかし、商品の取扱量も目標値を17.0%下回っており、事業活動の低迷によっての不本意な目標達成ともいえる。 今後、燃費の管理を行い、個別評価を採用する検討がある。
	目標(5ヶ月間)	19,313.86	kg-CO2	
	実績(5ヶ月間)	14,567.08	kg-CO2	
ガソリンの二酸化炭素排出量削減 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先する ・車両整備・点検の実施	基準年度	4,900.91	kg-CO2	目標大幅達成
	目標	4,851.90	kg-CO2	エコドライブの定着、低燃費車への乗り換えによって、20%減の大幅目標達成となった。しかし、商品の取扱量も目標値を17.0%下回っており、事業活動の低迷によっての不本意な目標達成ともいえる。 今後、燃費の管理を行い、個別評価を採用する検討がある。
	目標(5ヶ月間)	1,813.93	kg-CO2	
	実績(5ヶ月間)	1,411.36	kg-CO2	
灯油の二酸化炭素排出量削減 ・暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環 設定温度18℃(暖房20℃以下) ・ウォームビズ運動	基準年度	358.84	kg-CO2	目標未達成
	目標	355.25	kg-CO2	営業・就労時間の延長、パート雇い入れに伴い、使用量が増加。また、例年より、寒い時期が続き、結果、未達成となった。 寒冷期には、冷気を遮断する断熱シートの使用も検討。
	目標(5ヶ月間)	355.25	kg-CO2	
	実績(5ヶ月間)	403.69	kg-CO2	
LPGの二酸化炭素排出量削減 (基準年度中途からの使用。LPG使用期間は5ヶ月間) エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・車両整備・点検の実施	基準年度	2,341.53	kg-CO2	目標未達成
	目標	2,318.11	kg-CO2	基準年度は、途中5ヶ月間の使用なので、目標設定値を誤っており、問題点は正/予防処置票のとおり改善する決定をした。 以前は、軽油ディーゼルエンジン車をしようしていたので、エネルギー効率の良いLPG車に切り替えたことは、評価できる。継続努力を行なう。
	目標(5ヶ月間)	965.88	kg-CO2	
	実績(5ヶ月間)	1,936.26	kg-CO2	

一般廃棄物の削減 ※基準年度10月～2月は、一般廃棄物の発生が無かったため、評価は、1面的です。	基準年度	170.00	kg	目標未達成
	目標	168.30	kg	両面印刷、裏紙の使用は、定着しつつある。仕入顧客による商品持ち込み時に、ダンボール梱包での取引があり、増加傾向。しかし、汚れの少ない紙類に関しては、すべて古紙リサイクルへまわしている。
	目標(5ヶ月間)	0.00	kg	
	実績(5ヶ月間)	150.00	kg	分別ボックスを設置し、資源ごみを有効かつ適正に処理する一般廃棄物処理業者を選定する。
産業廃棄物の削減 ・分別ボックスの設置 ・分別意識の向上を目的とした社員教育 ・分別の徹底による有価物化	基準年度	1,450.00	kg	目標未達成
	目標	1,435.50	kg	選別を要する商品の取り扱いも増え、それに伴い残渣が増加発生。廃プラは、有価物化の可能性もあるが、分別能力・保管場所が無く、現状、RPF(固形燃料)に加工している産廃業者へ産廃として処分を委託している。今後検討する必要がある。
	目標(5ヶ月間)	598.13	kg	
	実績(5ヶ月間)	670.00	kg	そのままでは、廃棄物となる物品を有価物として買取り、選別することにより、再資源化し商品として売買していることは、評価できる。より一層の有価物化を推進する必要がある。
節水 ・洗車頻度と使用水量の管理 ・手洗い水量の適正化	基準年度	24.00	m ³	目標未達成
	目標	23.76	m ³	節水の呼びかけは、行なっているが、営業・就労時間の延長、パート雇入れに伴い、使用量が増加。結果、未達成となった。
	目標(5ヶ月間)	9.90	m ³	
	実績(5ヶ月間)	12.00	m ³	基準年度の使用量が、極端に少ないとも言え、今後は、保有車両(洗車)、従業員数の原単位で見る必要があるかもしれない。

取り組み計画	達成状況		単位	評価(結果と今後の方向)
有価物の取り扱い量増加 ・新規顧客開拓 ・既存顧客への新提案 ・価格競争力の強化 ・情報収集の強化	基準年度	8,007.00	t (トン)	目標未達成
	目標	8,407.35	t (トン)	新規仕入顧客数は伸びているが、リピーター率の低さと主要取引先の生産量減少により、目標を達成できなかった。
	目標(5ヶ月間)	3,503.06	t (トン)	
	実績(5ヶ月間)	2,906.80	t (トン)	一層の顧客掘り起こしと、提案力・価格競争力の強化で、取り扱い数量を伸ばす。
産業廃棄物の取扱量増加 ・既存顧客への新提案 ・新規顧客開拓 ・価格競争力の強化 ・情報収集の強化	基準年度	11.43	t (トン)	目標達成
	目標	12.00	t (トン)	許可区分が、収集運搬のみとなっており、積極的な新規顧客開拓は難しいので、既存顧客のニーズを汲み取り、リピーター率を高める努力をした。また、新規顧客には、知識、情報の提供をした結果、目標を達成できた。
	目標(5ヶ月間)	5.00	t (トン)	
	実績(5ヶ月間)	8.29	t (トン)	一層の顧客掘り起こしと、提案力・価格競争力の強化で、取り扱い数量を伸ばす。

総括

取締役社長 兼 環境管理責任者 金田 大地

・10項目中、達成が3項目、未達成が7項目となり、非常に厳しい結果となった。しかしながら、基準年度と本年度を比べると弊社をとりまく経済状況がまったく異なり、利益を得るために長時間化した就業時間、産業廃棄物に近い品質の劣る商品をも買い取って選別を行なうなど薄利を求める状況にあり、また組織としてのかたちを整備していく過程で、追加された事務作業もあり、消費エネルギーの増加＝排出CO2の増加、選別後産業廃棄物の増加につながったことは、ある意味、致し方ないかとも思える。投入するエネルギー、資源を削減しつつ社業を発展させていくことの難しさに改めて気付かされた。今後も、環境負荷低減の努力を継続し、1つでも達成項目が増えるよう努力していく所存である。

□環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等)
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上)第21条の4
フロン回収破壊法	事務所空調機
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。
自動車から排出される窒素感	自動車NOx・PM法 適合車の使用。
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃車時
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵・冷凍庫、洗濯機の廃棄時

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□その他の取り組みを紹介

①<断熱機能の向上と照明電力消費の削減。>

社屋屋根に上張りし、明かり取りを新調。作業場の照度が向上。

改善前



改善後



スクラップ商品置場の照度が全体的に向上しております。

改善後



改善後



明かり取り波板の透明度を上げ、明かり取り数 3面⇒4面

改善後



スレート屋根の上に、カラー薄鋼板を貼り付け、遮熱性・断熱性を向上。

②顧客への産業廃棄物の有価資源化 提案事例

廃棄決定時の現状のままでは、すべて産業廃棄物となる物品を弊社のコンサルティング及び作業により、大部分を有価物資源化、廃棄コストの低減を実現しました。
これにより、顧客である排出事業者の環境意識が向上し、今後、産業廃棄物の発生自体が抑制されることが見込まれます。

〈事例〉

顧客事業内容
携帯電話 販売代理店

対象物
店舗用 携帯電話ディスプレイ什器 等

廃棄物総数量	17,160kg
--------	----------

コンサルティング後 選別内訳

有価物 鉄スクラップ	12,910kg	※弊社 有価買取	延べ出車台数	10車	車両	7t積車	配車区分	用車
産業廃棄物(廃プラ 等)	4,250kg	※弊社 収集運搬 受託		2車		7t積車		自社便

廃棄前処理を行なうことにより、業務請負前に比べ、
産業廃棄物を 75%削減できました。

廃棄コスト対比

全量産業廃棄物 ※金属くず、廃プラ、ゴムくず、紙、混在

$17,160\text{kg} \times 60\text{円/kg} = \text{¥}1,029,600\text{-(税別)}$
産業廃棄物処理単価算出根拠＝処理費用 45円/kg 収集運搬費用 15円/kg

処分費用 ¥1,029,600-(税別)

弊社 コンサルティング及び作業請負

有価物 鉄スクラップ 12,910kg $\times 21\text{円/kg} = \text{¥}271,110\text{-(税別)}$ 買取

産業廃棄物(廃プラ 等) 4,250kg $\times 45\text{円/kg} = \text{¥}191,250\text{-}$

選別作業費 4,250kg $\times 10\text{円/kg} = \text{¥}42,500\text{-}$

収集運搬費用 $\text{¥}25,000 \times 2\text{車} = \text{¥}50,000\text{-}$

処分費用 ¥12,640-(税別)

産業廃棄物 99.98% 削減